

中島総長先生のご指導を受けて学んだことにつきまして

東京福祉大学大学院心理学研究科長
公認心理師養成機関連盟会長
日本臨床心理士会理事
日本臨床動作学会理事長
臨床心理学博士 鶴 光代

中島総長先生のご指導をいただき、大変勉強になりました。

試験に合格させることに徹した授業の仕方は、非常に独創的で合理的であり、学生の将来、そして保護者のお気持ちを考えたものであって、素晴らしい指導方法であることをよくよく学びました。

そして、「試験は学生の能力を試すものではない。」「試験は学生の能力を伸ばすためのものである。」というお言葉は、まさに名言だと思いました。

試験対策で、中島総長先生の方法で指導することは、公務員や国家資格等の試験の合格を実現させるだけでなく、学生自身の能力を伸ばし、自信を生み出し、人間として成長させていくことにつながるのだと感じました。

また、上記以外にも、下記のようなご指導は心に響きました。

合格するには、暗記を徹底的に行うことであるから、それに向けてのみ指導すること、つまり、「余計なことはしゃべらない」ことが肝要であり、ゆえに、「余分な資料は作らない」ことである。そして、「難しく教えない」ことが重要である。

中島総長先生の教え方は、時間の配分がよく考えられていると感じました。実際に、今回の研修会で、受講者として学生と一緒に暗記に取り組んだ時に、1問を30秒で暗記するというのは、緊張感をもって臨むということだと実感しました。

学生にとっても、目の前のことに注意を集中して、全力で取り組むという経験になっていると感じました。実際の試験のときも、こうした取り組みの姿勢が合格につながるのだらうと思います。

研修会の受講学生が、「家で暗記します」といった意見を申しましたが、その時、「大学で暗記するのだ」と、明確におっしゃったのも、時間内に問題と答えを真剣に暗記するには、教室でこうした指導方法の下で行うことが一番効果的だということあると理解しました。

最後に確認テストを行うことも、試験合格に向けて非常に重要なことと思いました。5分ほどの確認テストをスタートさせて、あと1分になったときに、「あと1分」と具体的告げるのも、残りの時間を意識でき、より一層集中して努力できるのだと感じました。

その後、全員で、結果を確認するのも、問題と答えを暗記することへのモチベーションを高める効果を上げていると実感しました。

今回学んだことを、学生に還元して、臨床心理士および公認心理師の合格率を高めていくことに努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。